

市教委傍聴 子連れ認め

横浜 母親らに「検討」約束

横浜市民でつくる「教育委員会を傍聴する会」は3月30日、市教育委員会の臨時会（18日）で子ども連れの傍聴者が退出せざるをえなくなった問題で、市教委に対し会議の傍聴ができるよう改善を申し入れました。

同会の土志田栄子さんは、18日の臨時会で「静謐（せいひつ）な環境で審議したい」として、子どもが静かにできなければ「席を外してもらいたい」と発言し、岡田優子教育長が「私はあまり気にならない」とした上で「どうしても気が散るようであれば、またお申し出願います」と応じる場面があったと説明。

2歳の息子と傍聴していた広越由美子さん（36）は、市職員が何度も声をかけて退出を促し、2度退出し、会議終了まで外で待たさ

れたといいます。「どの子かも判別できない程度の大きさの声だった。これでは、次から連れて行けない」と訴え、子ども連れでも傍聴できるようにしてほしいと求めました。土志田さんらは、会議規則で、退席を命じるのは教育長と決まっていると指摘。子連れの傍聴者の権利を奪わないよう要望しました。

応じた市教委総務課職員は、広越さんの意思を確認すべきだったと述べ、子連れの傍聴対応については「今後検討していきたい」と答えました。



市教委職員（手前右列）に改善を求める（奥の列左から）土志田、広越の両氏ら。3月30日、横浜市教委